

一馬政局官制
一奏任文官特別任用令中改正

外務大臣	陸軍大臣	文部大臣	遞信大臣
近衛	荒木	有田	河野
內務大臣	海軍大臣	農林大臣	鐵道大臣
高橋	米谷	高橋	高橋
大藏大臣	司法大臣	商工大臣	拓務大臣
齋藤	高橋	高橋	高橋

內閣總理大臣 齋藤

內閣書記官長 齋藤

內閣書記官 川島

農中第一八號

案起

昭和十一年七月一日

裁可昭和十一年七月一日

決定昭和十一年七月一日

施行昭和十一年七月一日

昭和十一年七月三十一日

半紙野紙(十行全)(白井納)

右樞密院ノ御諮詢ヲ經テ御下付
ニ付同院上奏ノ通裁可ヲ奏請セ
ラレ可然ト認ム

上諭案

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ馬政
局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

シム

御名 御璽

昭和十一年七月四日

内閣總理大臣
陸軍大臣
農林大臣

(樞密院上奏ノ通)

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ奏任文
官特別任用令中改正ノ件ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十一年七月四日

内閣總理大臣

(樞密院上奏ノ通)

九
濟

一馬政局官制

一奏任文官特別任用令中改正ノ件

臣等

右二件諮詢ノ命ヲ恪ミ本月一日ヲ以
テ審議ヲ盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上奏
シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十一年七月一日

樞密院議長男爵

臣

平沼騏一郎

相
宮
院

勅令第百十四號

馬政局官制

第一條 馬政局ハ農林大臣ノ管理ニ屬

シ馬ノ改良増殖其ノ他馬政ニ關スル

事務衛生保險及畜産組合ニ關スル事

務ヲ除ク及牧野ニ關スル事務ヲ掌ル
馬政局ハ前項ノ外軍用適格馬ノ資格
判定及軍馬資源ノ調査ニ關スル事務
ヲ掌ル

第二條 馬政局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

次長

一人

勅任

事務官

專任二人

奏任

理事官

專任一人

奏任

技師

專任五人

奏任

屬

專任十一人 判任

技手

專任九人 判任

第三條 前條ノ事務官ノ外事務官四人

ヲ置ク農林大臣ノ奏請ニ依リ陸軍佐

尉官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ニ補ス

第四條 前二條ノ職員ノ外農林大臣ノ

奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ

内閣ニ於テ事務官ヲ命ズルコトヲ得

第五條 馬政局ニ參與ヲ置キ局務ニ參

與セシム

參與ハ農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各

廳勅任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命

ズ

第六條 長官ハ農林次官ヲ以テ之ニ充

ツ

長官ハ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局

務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

但シ第一條第二項ノ事務ニ付テハ陸

軍大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第七條 次長ハ長官ヲ佐ケ局務ヲ掌理

ス

第八條 事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ

承ケ局務ヲ分掌ス

第九條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ

掌ル

第十條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ

従事ス

第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技

術ニ従事ス

第十二條 現役ノ陸軍佐尉官ニシテ第

三條ノ規定ニ依リ事務官ニ專補セラ
レタル者ハ陸軍ノ定員外トシ在職者
ニ關スル規定ヲ適用ス

第三條ノ規定ニ依リ事務官ニ專補セ
ラレタル者ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ

馬政局費ヨリ之ヲ支辨ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第百六十六號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

「産業組合事務官」次ニ「馬政局理事官」ヲ

加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農甲八

御覽濟内閣へ御下付

昭和十一年六月十九日

昭和十一年六月十九日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

立

陸軍大臣

五

文部大臣

子

逓信大臣

臣

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙陸軍農林兩大臣請議馬政局
官制制定ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ

法制局

通閣議決定セラレ可然ト認ム

追テ本件ハ樞密院官制第六條第六項ニ依リ樞密院ニ御諮詢相成可然ト認ム

勅令案

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ馬政局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

陸軍大臣

農林大臣

呈案附箋ノ通

農甲二八

昭和十一年六月四日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

印

陸軍大臣

印

文部大臣

印

逓信大臣

内務大臣

印

海軍大臣

印

農林大臣

印

鐵道大臣

印

大藏大臣

印

司法大臣

印

商工大臣

印

拓務大臣

印

別紙陸軍農林兩大臣請議馬政局官制制定ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ

通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

朕馬政局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

農林大臣

呈案附箋ノ通

法制局農第一九号 五月拾五日

主任 伊藤畜産局畜政課長

農閣第二八號

馬制局官制制定ノ必要有之候條別紙勅令案及理由書ヲ具シ此段閣議ヲ請フ

昭和十一年五月十四日

農林大臣 島田 俊



陸軍大臣伯爵寺内 壽



内閣總理大臣 廣田 弘毅 殿

農甲一八二

農省

勅令第 號

馬政局官制

第一條 馬政局ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ馬ノ改良増殖其ノ他馬政ニ關スル事務（衛生、保險及畜産組合ニ關スル事務ヲ除ク）及牧野ニ關スレ

事務ヲ掌ル

馬政局ハ前項ノ外軍用適格馬ノ資格判定及軍馬資源ノ調査ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 馬政局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

次長

事務官

理事官

一人

專任二人

專任一人

勅任

奏任

奏任

技師

專任五人

奏任

屬

專任十一人

判任

技手

專任九人

判任

第三條 前條ノ事務官ノ外事務官四人ヲ置ク農林大臣ノ奏請ニ依リ陸軍
佐尉官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ニ補ス

第四條 前二條ノ職員ノ外農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ事務官ヲ命ズルコトヲ得

第五條 馬政局ニ參與ヲ置キ局務ニ參與セシム

參與ハ農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

第六條 長官ハ農林次官ヲ以テ之ニ充ツ

長官ハ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス但シ第一條第二項ノ

事務ニ付テハ陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第七條 次長ハ長官ヲ佐ケ局務ヲ掌理ス

事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第九條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第十二條 現役ノ陸軍佐尉官ニシテ第三條ノ規定ニ依リ事務官ニ專補セラレタル者ハ陸軍ノ定員外トシ在職者ニ關スル規定ヲ適用ス

第三條ノ規定ニ依リ事務官ニ專補セラレタル者ノ俸給其ノ他ノ諸給與

ハ馬政局費ヨリ之ヲ支辨ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理 由

馬ノ改良増殖其ノ他馬ニ關スル事務（一、衛生、保險及畜産組合ニ關スル事務ヲ除ク）及牧野ニ關スル事務並ニ軍用適格馬ノ資格判定及軍馬資源ノ調査、シムル爲農林省ニ、馬政局ヲ設置スルノ要アルニ由ル

事務費

考

110

॥ श्री ॥

“

九五〇七

五七〇

款項	金額	區分	員數	單價	正算	正算増減	正算増減(金)	備考
臨時費	九七九五三	小使	二	三八〇	六三三	一二七	七六〇	
臨時職工		臨時職工	一〇〇	一三〇	一〇八	二二	一三〇	
被服費		被服費			一三九	〇	一三九	
巡視服		巡視服		四〇	八〇	〇	八〇	
使服		使服	二	二〇	四〇	〇	二四	
給仕		給仕	七	五	三五	〇	三五	
雜費		雜費	五〇	五	二五〇	〇	二五〇	
馬政調査會		馬政調査會	五五	五	二七五	〇	二七五	
蹄鐵工試驗		蹄鐵工試驗	二〇〇	二〇	四〇〇	〇	四〇〇	
用雜費		用雜費	二〇〇	二〇	四〇〇	〇	四〇〇	
小計		小計			九四六三	〇	九四六三	
合計	三〇〇〇	合計			一八、九七〇	〇	一八、九七〇	
新管費	一〇〇、九五三	新管費			三、〇〇〇	〇	三、〇〇〇	
合計		合計			二一、九七〇	〇	二一、九七〇	

參考
職員事務分擔
一新規増加職員

事項	項	長官	次長事務官	馬政事務官	屬	計
馬政局長官 (農林次官ヲ以テ之ニ充ツ)		一	一	一	一	一
馬政上諸般ノ調査及法令ニ關スル事項		一	一	一	一	一
軍馬資源ノ調査ニ關スル事項		一	一	一	一	一
軍用適格馬資格判定及其薦獎ニ關スル事項		一	一	一	一	一
馬籍ニ關スル事項		一	一	一	一	一
豫算及會計ニ關スル事項		一	一	一	一	一
人事及文書其他庶務ニ關スル事項		一	一	一	一	一
計		一	一	一	一	一

備考

馬政司事務官中括弧内ノ一人ハ現在ノ競馬官ヲ組替之ニ充當トスルモノトス
ニ既定職員

事	項	事務官	理事官	競馬官	技師	屬	技手	計
競馬法ノ施行ニ關スル事項	馬ノ改良増殖ニ關スル事項並馬ヲ主トスル共進會及地方種畜場ニ關スル事項	一	一	一	一	四	四	一
種牡馬檢査ニ關スル事項	國有種馬ニ關スル事項	一	一	一	一	一	一	一
種馬牧場種馬育成所及種馬所ニ關スル事項		一	一	一	一	一	一	一
計		一	一	一	五	七	九	二四

三本件經費要求ニ伴ヒ陸軍省經費中ヨリ減額スヘキ金額同譯左ノ如シ

區分	昭和十一年度	昭和十一年度以降	備考
馬政官俸給	六、一四一	七、三七〇	大佐 八、一五〇 中佐 三、二二〇
人員ニ伴フ廳費	一八三	二二〇	一人 二八分
内國旅費	一、〇〇〇	一、二〇〇	一人 二八分
雜費	八三	一〇〇	五〇分
計	七、四〇七	八、八九〇	

馬政局設置ニ關スル經費説明

一 計畫

馬政ハ國防上必要ナル有能馬特ニ有能乘輓馬ノ充實ヲ目標トシ産業上ノ基礎ニ立脚シ經濟ノ實狀ニ即シテ適切ナル方策ヲ講シ馬産ノ發達ヲ圖ルヲ以テ其ノ根本方針トス明治三十九年第一次馬政計畫ノ樹立以來官民協力銳意之ヲ進展ニ努メ其ノ成績見ルヘキモノアリト雖モ方今内外諸般ノ情勢ニ鑑ミ本年度ヨリノ馬政策ニ次計畫實施ニ當リテハ右方針ヲ明確ナラシメ各般ノ施設ヲ徹底充實シ馬産經營ノ安定ヲ圖リ國防上ノ要ホニ適應セシムルコト極メテ緊要ナリ而シテ之カ達成ニ遺憾ナキヲ期スルカ爲メ右趣旨ニ基キ馬政機關ヲ擴充スルノ要アリ依テ左記ニ依リ農林省ノ外局トシテ馬政局ヲ設置セントス

記

一馬政局ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ馬政ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

二馬政局ニ長官ヲ置キ長官ハ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ事務ヲ總理ス但シ軍用適格馬ノ資格判定及軍馬資源ノ調査ニ付テハ陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ク

三現在農林省畜産司ニ於ケル馬産ニ關スル事務、競馬法施行ニ關スル事務、地方競馬指導獎勵ニ關スル事務、牧野改良及蹄鐵工ニ關スル事務ハ之ヲ馬政局ニ移管ス

二經過及事業ノ現状

馬政局ハ明治三十九年內閣ニ設置セラレ同四十三年陸軍省ニ移管セラレ大正十二年農林省畜産司ノ設置ト共ニ獨立官制ハ廢止セラレ今日ニ及ヒタルモノナルカ其ノ後時代ノ推

移ニ伴ヒ馬政局設置ノ要望年ト共ニ増加シ別紙ノ如ク全國的ニ之ヲ建議、請願ヲ見ルニ至リ第六十七議會ニ於テハ衆議院ニ於テ馬産振興ニ關スル建議中ニ農林省ニ馬政局ヲ特設スルコトト可決セラレタルアリ又社団法人帝國馬匹協會會頭ヨリ提出ノ馬産振興ニ關スル件中農林省ニ馬政局ヲ特設スルコトノ建議及請願カ而院ニ於テ採擇セラレ其ノ他道府縣畜産主務課長、畜産主任官、種畜場長會議、種馬牧場種馬育成所及種馬所長會議ニ於ケル答申ニ見ルモ之ヲ設置ヲ要望セルモノアリ殊ニ昭和十一年度ヨリ馬政第二次計畫ノ實施セラレントスルニ當リ全國馬事団体ヨリ此際馬政機構ヲ擴大強化シテ馬政局ヲ設置シ本邦馬産ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコトヲ期セラレ度トノ熱烈ナル希望アリタル等内外諸般ノ情勢ニ鑑ミ之ヲ設置ノ要緊切ナルモノアリ

馬政機關ニ關スル建議及請願

事	項	提出者	年月日
馬政司設置ニ關スル件	帝國馬匹協會會頭	昭和 三、二、一五	
馬ニ關スル行政機關擴充ニ關スル件	松平 頼壽	六、一、二〇	
馬政司設置ニ關スル件	全	九、二、	
全	長野種馬所管内ニ府十四縣 產馬協議會會長 平野 孫四郎 兵庫縣畜產組合聯合會會長 平林 紋次	九、二、一四 九、四、	
全	北海道東北六縣產馬大會議長 持田 謹也	九、八、一五	
全	九州聯合畜產會會長 三善 信房	九、八、一八	
第六十七帝國議會衆議院ニ提出 馬產振興ニ關スル建議ニ農林省ニ馬政局ヲ特設スルコト	代議士 大石 倫治 外三名	一〇、三、一四	
貴衆兩院ニ提出 馬產振興ニ關スル建議及請願ニ農林省ニ馬政局ヲ特設スルコト	帝國馬匹協會會頭 松平 頼壽	一〇、三、二	
馬政機構ヲ擴大強化シ農林省ニ馬政局ヲ特設スルコト	四國四縣畜產會議會長 久保 田 暖	一〇、七、二	
馬產振興ニ關スル件 (馬政司ヲ特設シ中央馬政機關ヲ 擴大強化スルコト)	北海道東北六縣產馬大會議長 土田 莊助	一〇、五、一五	

畜産局職員数調

区分		馬政局		畜産局	
農林本省(馬政局)	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
馬政關係	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
畜政課	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
一般畜産課	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
畜産課	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
産業奨励費	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
畜産奨励費	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
鶏卵増産奨励	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
馬事振興	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
馬産奨励費	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
地方競馬指導	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
馬政奨励費	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官
計	事務官	事務官	事務官	事務官	事務官

區分	馬政局					畜産局				
	事務官	事務官	理事官	技師	技手	事務官	事務官	理事官	技師	技手
種痘馬飼養獎勵										
畜産物輸出獎勵										
軍用適格馬重獎										
地來馬普及										
馬産産率増進獎勵										
農産改良(農産生利)										
農村振興費										
畜産物販賣獎勵										
飼羊共同施設獎勵										
畜産共同施設										
牛獸肥育事業獎勵										
有畜農業普及獎勵										
調査及研究費										
馬産記録施設準備調査										
計										

區分	馬政局					畜産局				
	事務官	事務官	理事官	技師	技手	事務官	事務官	理事官	技師	技手
馬産經濟實態調査										
家畜傳染病及害蟲防疫費										
法定外家畜疾病防疫										
家畜衛生思想普及獎勵										
農村經濟更生施設費										
飼料利用施設獎勵										
家畜再保險特別會計										
小計(本局及馬政局)										
所管場所										
獸疫調査所										
臨時(青島)										
馬、傳染性貧血調査										
牛、傳染性流産調査										
畜産試驗場										
計										

各部局主管法令調

農務局	山林局	水產局	畜產局 (馬政以外)	蠶絲局	米穀局	經濟更生部
九	五	六	五	九	五	五
一六	一八	一四	三	一三	九	一二
二二	三二	四五	一四	二〇	八	八
四七	五六	六五	二二	七六	二二	二五
計						

區分	中級教育	初級中學	職業科	師範科	農業科	林業科	畜產科	水產科	蠶絲科	米穀科	合計
馬政											
教育											
農業											
林業											
畜產											
水產											
蠶絲											
米穀											
合計											

備考

馬政ニハ馬政局ノ主管トナルヘキモノ、馬政以外ニハ畜産局所管
ニ殘存スヘキモノヲ計上セリ

道府縣畜産關係職員調

（大正十二年度
昭和九年度）

大正十二年度

昭和九年度

合 計	地 方 費	國 庫 補 助	國 費	馬ニ關スルモノ			馬以外ノモノ		
				高等官 同待遇	判任官 同待遇	計	高等官 同待遇	判任官 同待遇	計
八一	六〇	一六	五						
四二九	二七五	一五	一三九						
五一〇	三三五	三一	一四四						
四七	一七	三〇							
一一八	五三	四二	二三						
一六五	七〇	七二	二三						
一四三	五一	八七	五						
六〇七	三八一	八六	一四〇						
七五〇	四三二	一七三	一四五						
九一五	五〇二	二四五	一六八						

備考

一、牧野關係職員ハ馬ニ關スルモノトシテ計上ス

一、家畜衛生、有畜農業、家畜保險關係職員ハ馬以外ノモノトシテ計上ス

一、高知縣、神奈川縣、東京府ハ大正十二年度不明ニ付夫々昭和四年度、大正十五年度、大正十三年度ノモノヲ計上セリ

道府縣畜産關係豫算調 (大正十二年度 昭和九年度)

年度及種別	豫算額	合計
大正十二年度	二、〇一八、一二二、〇〇 ^四	二、〇一八、一二二、〇〇 ^四
昭和九年度	一、八五九、〇二〇、七四	四、三八一、四三四、七〇
馬ニ關スルモノ	二、五二二、四一三、九六	
馬以外ノモノ		

備考

一、牧野關係經費ハ馬ニ關スルモノトシテ計上ス
 一、家畜衛生、有畜農業、家畜保險關係經費ハ馬以外ノモノトシテ計上ス

一、高知縣、神奈川縣、東京府ハ大正十二年度不明ニ付夫々昭和四年度、大正十五年度、大正十三年度ノモノヲ計上セリ

畜産局経費豫算及定員比較 (大正十二年度 昭和十年度)

年 度	種 別	經 費 豫 算	定 員		
			高等官	判任官	計
大正十二年度	馬ニ關スルモノ	二、二五七、一九九	二四	七九	一〇三
	其ノ他	二、三四七、二二九	三八	八九	一二七
	計	四、六〇四、四二八	六二	一六八	二三〇
昭和十年度	馬ニ關スルモノ	三、五三八、二二八	三四	一一五	一四九
	其ノ他(特別會計ヲ含ム)	三、八三六、〇〇三	四七	一〇六	一五三
	計	七、三七四、二二一	八一	二二一	三〇二

備考 一、経費定員共場所ヲ含ム

二、馬ニ關スルモノニハ馬政局所管ニ該當スル分ヲ、其ノ

他ニハ該局所管ニ該當スル分ヲ掲記ス

非現行

参照

馬政局官制

明治四十三年六月二十二日
命令第三百九十九號

馬政局官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 馬政局ハ陸軍大臣ノ管理ニ屬シ馬匹ノ改良蕃殖其ノ他馬政ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條 馬政局ハ之ヲ東京ニ置ク
地方ニ種馬牧場三箇所、種馬育成所一箇所及種馬所十五箇所ヲ設キ馬政局ノ事務ヲ分掌セシム

第三條 馬政局ニ左ノ職員ヲ置ク
馬政長官 七人
書記官 一人
種馬牧場長 一人
種馬育成所長 一人
種馬所長 十五人
技師 專任六人
書記 專任三十八人
技手 專任六十九人

第四條 馬政長官ハ現役陸軍中將又ハ少將ヲ以テ之ニ充ツ陸軍大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ總理シ所屬土地建物ノ經營ヲ管掌ス

第五條 馬政官ハ三年以上馬匹ニ關スル職務ニ從事シタル陸軍現役佐尉官又ハ馬政局技師ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ馬政ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 書記官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル
第七條 種馬牧場長、種馬育成所長又ハ種馬所長ハ陸軍騎兵科若ハ獸醫部ノ現役上長官トシ上官ハ馬政局技師ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 種馬牧場長ハ馬政長官ノ指揮監督ヲ承ケ種馬ノ蕃殖及飼料ノ耕作ニ關スル事務ヲ掌ル
第九條 種馬育成所長ハ馬政長官ノ指揮監督ヲ承ケ幼種馬ノ育成及調教並飼料ノ耕作ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 種馬所長ハ馬政長官ノ指揮監督ヲ承ケ種馬ノ飼養管理及種付並飼料ノ耕作ニ關スル事務ヲ掌ル
第十一條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
第十二條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第十三條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
第十四條 種馬牧場、種馬育成所及種馬所ノ名稱位置並種馬所ノ管轄區域ハ陸軍大臣之ヲ定ム

昭和拾三年五月拾六日

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

半紙罪紙(半行全)(白井納)

農甲一六

御覽濟内閣へ御下付

昭和十一年六月五日
御下付

昭和十一年六月四日

内閣書記官長

内閣書記官

川島

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣

陸軍大臣

海軍大臣

文部大臣

逓信大臣

内務大臣

農林大臣

鐵道大臣

大藏大臣

司法大臣

商工大臣

拓務大臣

別紙農林大臣請議奏任文官特別任用令
中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ

去
刑
局

通閣議決定セラレ可然ト認ム

追テ本件ハ文官任用ニ關スル勅令
ナルヲ以テ樞密院ニ御諮詢相成可
然ト認ム

勅令案

朕樞密顧問、諮詢ヲ經テ奏任文官特
別任用令中改正、件ヲ裁可シ茲ニ之
ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

呈案附箋、通

又号

五月廿五日



主任 伊藤畜産局畜政課長

農閣第三〇號

奏任文官特別任用令中改正ノ必要有之候條別紙勅令案及理由書ヲ具シ此段
閣議ヲ請フ

昭和十一年五月十四日

農林大臣 島田

俊



付箋

內閣總理大臣 廣田 弘毅 殿

法制局
農部省

文号

五月十五日



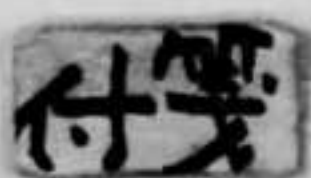
主任 伊藤畜産局畜政課長

農閣第三〇號

奏任文官特別任用令中改正ノ必要有之候條別紙勅令案及理由書ヲ具シ此段
閣議ヲ請フ

昭和十一年五月十四日

内閣總理大臣 廣田



馬政局官制制定案並ニ「農林省
官制」種馬牧場種馬育成所及種馬
所官制「農林部内臨時職員設置制」及
「高等官官等俸給令」改正ノ勅令案
ハ本件ト同時ニ公布相成様致度

法制局

勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス

「産業組合事務官」ノ次ニ「馬政局理事官」ヲ加フ

附 則

本令ハ公布ノ、、、、日ヨリ之ヲ施行ス

小張納

理由

馬政局理事官ノ掌ルベキ、事務ノ性質上多年其ノ、
、事務ニ従事シタル經驗者ヲシテ、
、之ヲ掌ラシムル、途ヲ開
クノ要アルニ由ル

参照

奏任文官特別任用令(大正九年五月
勅令第百六十號)

(總理大臣
副署)

奏任文官特別任用令

左ニ掲クル奏任文官ハ五年以上判任以上ノ官ニ在職
シテ行政事務ニ従事シ判任官五級俸以上ノ俸給ヲ
受ケタル者ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用
スルコトヲ得

(前略)

農林理事官

産業組合事務官

昭和拾壹年五月拾六日作

營林局山林事務官

營林署山林事務官

(後略)

半紙郵紙(十行全)白井納

一馬政局官制

一奏任文官特別任用令中改正ノ件

右別紙ノ通本院ニ於テ決議上奏候條此段
及通牒候也

昭和十一年七月一日

樞密院議長男爵平沼騏一郎

內閣總理大臣廣田弘毅殿

一馬政局官制

一奏任文官特別任用令中改正ノ件

臣等 右二件諮詢ノ命ヲ恪ミ本月一日ヲ以
テ審議ヲ盡シ之ヲ可決セリ乃チ謹テ上
奏シ更ニ

聖明ノ採擇ヲ仰ク

昭和十一年七月一日

樞密院議長男爵臣平沼騏一郎

勅令第 號

馬政局官制

第一條 馬政局ハ農林大臣ノ管理ニ屬
シ馬ハ改良増殖其ノ他馬政ニ關スル
事務(衛生、保險及畜産組合ニ關スル事
務ヲ除ク)及牧野ニ關スル事務ヲ掌ル
馬政局ハ前項ノ外軍用適格馬ノ資格

判定及軍馬資源ノ調査ニ關スル事務

ヲ掌ル

第二條 馬政局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

次長

一人

勅任

事務官

專任二人

奏任

理事官

專任一人

奏任

技師

專任五人

奏任

屬

專任十一人

判任

技手

專任九人

判任

第三條 前條ノ事務官ノ外事務官四人

ヲ置ク農林大臣ノ奏請ニ依リ陸軍佐

尉官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ニ補ス

第四條 前二條ノ職員ノ外農林大臣ノ

奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ
內閣ニ於テ事務官ヲ命ズルコトヲ得
第五條 馬政局ニ參與ヲ置キ局務ニ參
與セシム

參與ハ農林大臣ノ奏請ニ依リ關係各
廳勅任官ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命
ズ

第六條 長官ハ農林次官ヲ以テ之ニ充
ツ

長官ハ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局
務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
但シ第一條第二項ノ事務ニ付テハ陸
軍大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第七條 次長ハ長官ヲ佐ケ局務ヲ掌理

ス

第八條 事務官及理事官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス

第九條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第十一條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第十二條 現役ノ陸軍佐尉官ニシテ第三條ノ規定ニ依リ事務官ニ専補セラレタル者ハ陸軍ノ定員外トシ在職者ニ關スル規定ヲ適用ス

第三條ノ規定ニ依リ事務官ニ専補セ

ラレタル者ノ俸給其ノ他ノ諸給與ハ
馬政局費ヨリ之ヲ支辨ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勅令第 號

奏任文官特別任用令中左ノ通改正ス
「産業組合事務官」次ニ「馬政局理事官」ヲ
加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法制局第一六号

五月拾五日

農閣第三一號

主任 伊藤畜産局畜政課長

種馬牧場、種馬育成所及種馬所官制中改正ノ必要有之候條別紙勅令案及理由書ヲ具シ此段閣議ヲ請フ

昭和十一年五月十四日

農林大臣 島田

俊



内閣總理大臣 廣田 弘毅

付箋

廢案

勅令第 號

種馬牧場、種馬育成所及種馬所官制中左ノ通改正ス

第三條中「農林大臣」ヲ「馬政局長官」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ、、、日ヨリ之ヲ施行ス

民法

商法

公法

行政法

刑法

民法

理由

農林省ニ馬政局設置ニ伴ヒ種馬牧場、種馬育成所及種馬所官制中改正ノ要アルニ由ル

農甲三三

昭和十一年七月十八日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣 齋

法制局長官

外務大臣

印

陸軍大臣

五

文部大臣

子

逓信大臣

五

内務大臣

直

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

也

大藏大臣

致

司法大臣

也

商工大臣

五

拓務大臣

查

別紙農林大臣請議農林部内臨時職員設置制中改正ノ件

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ